

意見交換の各テーマの関係性イメージ

～自治を進める上において必要なテーマで、意見交換を行います～

住民自治の推進

情報の共有 <第3回>

今日はここ!

市政の情報

市民活動・地域の情報

市政への参画
<第4回>

住民投票 <第8回>

身近な地域での自治
(地域コミュニティの活性化)
<第5,6回>

各主体の権利と責務 <第7回>

行政

市民
個人

町会

市民
団体

事業
者等

付託を受けて運営

住民自治を支える姿勢

行政運営 <第9回>
(団体自治に関する主要な事項)

参画する（しない）理由

	なぜ、これまで参画してこなかったのか ←	→ なぜ、これまで参画してきたのか
きっかけ	<p>きっかけがなくて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで関わるきっかけがなかった ・どうすれば参画できるか知らなかった ・活動する楽しさを知らなかった <p>つながりがなくて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独身で子供がいなくて（地域との）つながりが無い ・活動と自分の生活とが繋がらなかった 	<p>役割を与えられて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割を与えられ、地域のことを知って、地域のためにできることをしようと思った ・団地の自治会で、フロアーごとの持ち回りとなったため <p>頼まれて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に頼まれ、尼崎市、子どもたちのために少しでも役に立てるのであれば、尼崎のイメージアップをしたい ・ライオンズクラブからの招待 <p>仲間がいたから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ思いを持つ人が近くにいたのでその繋がりから始めた <p>活動し始めて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尼崎について学び始めてから尼崎の良いところを多くの人に広めたいと思った ・子どもを育てる時、学校、地域と関わりを持ち、子育ては1人では出来ないと感じた。PTAや近所同士の繋がりを大切にしたいと思った <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己成長のため ・夢敗れて地域に目を向けた
興味・関心	<p>関心がなくて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に愛着や関心はない ・どんな活動があるのか知らないし、調べようという気持ちにならなかった ・地域活動が何なのかわかっていない ・市のホームページを見ることがない ・市役所に寄ることがない <p>特定の人の問題と思っていて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商売をやって、利害のある人が参加していると思っていた <p>煩わしくて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面倒くさい ・そこに住む住民としての意識が低かった（仮住まい的意識）。都合が悪くなれば他都市に逃げるができる 	<p>身近な地域のこと気がなって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暇になっていく商店街を何とかせねばと思った ・地域の森が汚かった <p>地域のことを知ってしまって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任児童委員活動で地域の希薄化を感じてきたので子育てサークルにスタッフとして参加した ・自分の所属していた職場から市議員を出し、様々な問題に直面した。そこから関心が広がった <p>そもそも関心のあるテーマがあって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味があることができるグループがあった ・地元への郷土愛があった ・NPO団体（自然と文化の森協会）に加入し、地域の歴史・農業に関心が深まった
優先順位	<p>時間がない（優先順位が低い）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動などに対する優先度や価値が低い ・平日は学校、バイト、仕事。休日は自分の趣味ややりたいことに費やしたいため ・家には基本的に寝に帰るだけで時間がない ・仕事があり時間が合わない ・仕事、育児など身の回りのことが大変で余裕がない ・仕事中心で地域に意識が向かわなかった <p>必要性を感じない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にサービスを受けることもないし、困らない（図書館、公園、病気、バスなど） ・これまで参加せずとも暮らしていた 	
その他	<p>個人の適性の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が市のためになるような活動がまさかできるとは思っていなかった ・人付き合いが苦手 <p>地域性の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会が機能していない 	

どうすれば参画するか（したか）

	参画してこなかった人が、どうすれば参画できるのか 希望	参画してきた人の経験として、どうすれば参画する人が増えたのか 実際
きっかけ	<p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな活動があるのかをわかりやすく伝える ・地域に興味をもてるきっかけがあれば参加するのではない <p>自覚を促す機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の気づき（地元で生かしてもらっている意識）が大切。気付くきっかけを与える <p>出合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる機会を通してコミュニケーションをとる ・関係者との出合いがあれば良いのでは ・コミュニティづくり、仲間づくりが大事 	<p>情報を、わかりやすく届ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動が市民に見えやすく、分かりやすくしていく、広報力を上げるなど <p>情報を、発信し続ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づきのきっかけを絶えず、地道に発信し続ける ・地域のことを継続的に知ってもらう <p>情報を、自ら伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を伝え、知ってもらう <p>簡単なことからでも参加できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民としての参加の方法はいろいろあることを見できるようにする（NPOや市民活動に対する支援や自治会の工夫など） ・参加のハードルを低くする
興味・関心	<p>テーマを分ける（はっきりさせる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自分に振りかかる事なら参加できる（親の高齢化に対すること、カラス対策、子ども関係等） ・地域問題を明確化し、意識してもらう <p>「楽しいこと」をきっかけにする（見せる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白そうな魅力づくりが大事 ・どのような活動をしているのかブランディングする 	<p>テーマを分ける（はっきりさせる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、カテゴリー別、問題、趣味等の仲間を募り、そこから行政、市政へトライする <p>「楽しいこと」をきっかけにする（見せる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ時間に動ける人が食事会やお茶会等で親しくなり、外に出て行けるようにする ・「町会手作りいろいろ展」を企画して人が集まる機会を設けようとしているところ ・楽しさ、面白さをいかに伝えるか
優先順位	<p>メリット・デメリットを見せる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加することのメリット、参加しないデメリットを示す <p>強制する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条例で地域活動への参加を強制すれば良い 	<p>アメを与える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通費を支給する ・小さな報酬を与えれば良い。少しのギャラがあればメンタル的にも違うのでは
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・学生がボランティアに参加しないのは地域の魅力を知らないため。また、金銭面、時間の問題もある。 ・若い人が無関心。若い人同士の繋がりがあれば。

まちづくりにおける情報発信・共有について

近畿大学総合社会学部教授 久 隆浩

1 ネットワーク社会と情報

ネットワーク社会≒情報社会
社会の中で「情報」がますます重要に

協働：異なった立場の人々が、目的を共有し、それぞれの得意な活動を行う
目的の共有 ← 情報交換

顔合わせ・心合わせ・力合わせ(田中亨胤・兵教大名誉教授)

情報交換の場・機会づくりが重要

2 情報を伝える

発信者 → (情報) → 受信者

メディア【media】 手段。方法。媒体。特に、新聞・テレビ・ラジオなどの情報媒体
mediumの複数形

発信者が発したとしても、受信者が受け取らないと、情報は伝わらない
情報伝達の鍵は「受信者」が握っている

情報を発信する≠情報が伝わる

どのようにすれば、情報は伝わるか？

分かりやすさ：すでに持っている知識と参照して情報を理解する

受信者の興味・関心に沿わせる：言いたいこと／聴きたいこと

対象を明確にする：「広報はラブレターのように書く」

(吉田 知津子さん・元さいたまNPOセンター広報専門スタッフ)

3 新たなメディアをどう活用するか

ネットワーク活動 ← ネットワーキングの道具

イベント中止の情報をいかに伝えるか？

かつて：連絡網 今：メール もっと楽なのは電子掲示板(BBS)

大阪市鶴見区・榎本地域活動協議会： Facebook, twitterの活用
← 木村理事長がかつてから情報伝達に課題を感じていた

佐賀県武雄市 つながる部 フェイスブック・シティ課

ビッグデータ・オープンデータの活用
市民が情報を活用し、活動に役立てる
市民が持つ情報を市が活用する

「internetを使える市民ばかりではない」
internetも含め、多様な媒体で情報を伝えることが重要

今まで市政情報や地域情報に関心のなかった層に届く
都島区政会議をUstreamで発信 → 子育て世代からコメント

FAQやFacebookで情報が得られた人は市役所に電話しなくなる
→ internetを使えない人への対応が充実する



今日の目的（ゴール）

『情報発信・共有』を進める上での課題や、『情報発信・共有』をより進めていくためのアイデアについて、様々な視点から意見交換を行い、市民個人・団体・行政などそれぞれの主体に何ができるかを考え、「振り返りシート」に書き落とします。



進行予定

	内容	時間
説明	事務局より進め方、グラドルールについて	5分
第1セッション	「課題」について意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単に自己紹介（1人20秒・名前と属性くらい） ・テーブルホスト役を各班1人決めます ・付箋に「課題」を書き出しましょう（できるだけ多く） ・書いたことを口にしながらか模造紙に貼っていきます（似た意見を集めながら） ・各自、どうしてそのように思うのか意見交換します 	25分
移動	テーブルホスト1人を残して、他のメンバーはそれぞれ別のテーブルへ	—
第2セッション	「課題」について意見交換⇒「より進めていくためのアイデア」を意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単に自己紹介（1人20秒・名前と属性くらい） ・テーブルホストは、第1セッションで出た意見を紹介します ・新しいメンバーは、自分のグループで出された意見を紹介し、お互いに感じたことなどを話し合います ・大事ななと思ったことがあれば付箋に書いて貼りましょう ・「課題」を共有できたら、今度は『情報発信・共有』をより進めていくために何ができるか、「アイデア」を意見交換します 	30分
移動	テーブルホスト1人を残して、他のメンバーはそれぞれ別のテーブルへ	—
第3セッション	「より進めていくためのアイデア」を意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単に自己紹介（1人20秒・名前と属性くらい） ・テーブルホストは、第2セッションまでに出た「課題」と「アイデア」を紹介します ・付箋に「アイデア」を書き出しましょう（できるだけ多く） ・書いたことを口にしながらか模造紙に貼っていきます（似た意見を集めながら） ・各自、どうしてそのように思うのか意見交換します 	25分
全体共有	<ul style="list-style-type: none"> ・他のテーブルの模造紙を見て回り、「いいね！」と思う意見にシールを貼っていきます（課題、アイデアどちらに貼っても構いません） 	10分

グループワークのすすめかた



ワールドカフェとは・・・

「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考えに基づき、コミュニケーションの手法です。

何かひとつの結論を出すことや、議論することが目的とするのではなく、様々な人の考え方に触れて、一人ひとりが「気付き」を得ることができる場をつくります。様々な企業や団体、コミュニティで、研修や組織の活性化などに活用されています。



カフェのルール

- ① メンバーの意見をまとめたり、議論するための場ではありません。
正解や間違いはありませんので、テーマに関連して、感じたこと・思いついたことを気楽かつ自由に話してください。
- ② 発言は順番にお願いします。
他のメンバーの発言をさえぎったり、同時に話したりするのは控えてください。
- ③ この場では、お互いに職場や職種、役職は抜きにして、リラックスして対話を楽しみましょう。
他のメンバーの意見を否定したり、誰かを責めたりするのは控えてください。
- ④ 自分に何ができるか考えましょう。
できるだけ「〇〇に××をしてほしい」といったお願いだけに偏らないようにしてください。
- ⑤ アイデアや思いついたことは、付箋にプロッキーで簡潔に書きましょう。



テーブルホストは・・・

同じテーブルに残り、自分のテーブルで話された内容を新しいメンバーに説明しましょう。

第3回 尼崎らしいまちづくりのルールを考える市民懇話会「振り返りシート」

氏名_____

(1)久先生の話提供及びグループでの意見交換を経て、以下の項目についてのお考えをお書きください。

「情報発信・共有」を進める上で・・・

① わたしがやること、できること

② みんなでやること、できること

③ ①、②では難しく、行政主体でやること、また①、②をやるために行政がやること

(裏面あり)

④ その他、大事だと思うこと

(2) 本日の懇話会で感じたことなどがありましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

「市政への参画」の捉え方

市政参画って？

- ・次回意見交換していただく「市政参画」とはパブリックコメント（市政への意見提出）や審議会への参加などに限らず、行政が実施する事業に対して関わることで、例えば、10万人クリーン運動などのイベントや公民館の講座に参加することなども含まれます。

市政参画の効用

- ・市民が市政へ参加することで市民・行政・地域社会のそれぞれに次のようなメリットがあり、これまで以上に市民主体のまちづくりが進められると考えられます。

①市民

自主的・主体的に市政に関わろうとする意識を持った市民の輪が広がり、地域における市民の力が向上します。

②行政

市民ニーズが多様化する中、市政運営の各過程に市民の参加を得ることで、より市民の視点やニーズを的確に踏まえた効率的・効果的な行政サービスが可能となります。

③地域社会

市政への参加を通じて、市民間の交流がこれまで以上に活発となり、人と人のつながりのあるお互いの顔が見える地域社会が生まれます。



「市政への参画」についての課題

- ・「市政参画」を考える上で、行政としては次のような課題を感じていますが、これらの課題をより良くしていくためにはどのような工夫が必要か、皆様のご意見を伺いたいと思います。
- ・なお、これらはあくまで行政視点での課題認識ですので、記載内容に関わらず市民としての目線で、日ごろ感じる課題やより良くしていくためのアイデアを自由な発想で意見交換をお願いします。

意見を聴く時期

- ・行政が市民に意見を聴く時期には、事業の方向性がほとんど決まっているので市民の意見を反映することが難しい。一方で方向性が十分に定まっていない中で、意見を聴くのは技術的に難しい（どんな資料でどのように聴くかなど）

意見を出す人

- ・市報等で広報するだけでは、特定の市民しか参加しておらず、審議会や市民会議などにおいて1人で何役もしている例も見られる
- ・意見はあっても声をあげない市民の意見が把握できていない
- ・不特定多数の市民に呼びかけてもなかなか参加してもらえない
- ・若い世代に参加してもらうことが難しい

意見の対象

- ・市民が気付いた業務改善について、意見を気軽に表明できる機会が少ない
- ・些細な案件では気軽に行政に意見を言えない
- ・気軽に意見を言え過ぎるのもいかなものか（無責任な意見が増えるなど）

意見の聴き方

- ・市民に意見を聴くときに、市民と行政が対峙するような形になってしまい、建設的な意見が出にくくなってしまいう場面がしばしばある
- ・市民と良い関係を築けるよう、行政職員にもファシリテーションなど効果的な意見聴取の手法に関する知識やスキルが必要である
- ・行政内部で良いファシリテーターの情報が共有されていない
- ・行政主催の会議は堅苦しそうで魅力が感じられない
- ・参加する最初の一步がなかなか踏み出せない